
とある外道最低系主人公の話

十五夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある外道最低系主人公の話

【Nコード】

N0619Z

【作者名】

十五夜

【あらすじ】

神の失敗によって理不尽に殺された主人公は理不尽に殺された事への怨みを来世にぶつける事にした。

これは外道最低系主人公が成長する物語。

第1話『神様転生の神様ってなんの神様？ 日本には八百万の神様がいるし、

うん、ちょっとした暴走なんだ。温かく見守って下さい。

第1話『神様転生の神様ってなんの神様？ 日本には八百万の神様がいるし、転

「え？」

気が付けば知らない場所にいた。

気が付けば知らない場所にいた、なんてフレーズを現実で使う事があるとは思ってもみなかつたけど実際にあるのだから仕方ない。

誘拐かと思つたがこの場所と例えていいのか解らないただ真っ白で何も無い白い空間は明らかに非現実的で思つたより冷静だった。

何処かこれから始まる物語の導入部を見せられている様な感覚だった。

『おお、九郎よ。死んでしまつとは情けない……』

「え？」

今度は二重の意味での眩き。誰もいないのに頭に響く様にして聞こえてきた声とその声が発した言葉がドラゴンをクエストしないRPGの勇者がゲームオーバーした時に表示される台詞。

『ふむ、日本男子たるもの誰もが察するであろう死刑宣告を理解せぬとはなんたる事か！ ああ、分かった。神であるワシにこう言わせたいのだろ。ちよつとした手違いでおぬしを殺しちゃったから許してね。サービス付きで転生させてあげるから』

何故か逆ギレされた。何処からともなく頭に響いてくる声に超越的な何かを感じるので自ら神と名乗るこの声は本当に神様なのだろう。随分と俗物的な神様である。

言わせてもらうが日本男子全てが王様の台詞を知っている訳じゃない。それに俺はホイミ派ではなくケアル派だ。

「……………よし、把握した。転生型オリ主ですね」

俺の中に眠る二次元知識はすぐさま答えを得る。^{オタク}

「死んだ覚えは無いんですが？」

『いや、それがさ。暇で仕方なくて暇つぶしを探してたら丁度、布団で寝ていたおぬしが目に入ったんでおぬしの普通に幸せな家庭を作って死んでいく平凡な人生を波瀾万丈で刺激的な人生に変えてやろうと思って運命を色々いじくって遊んでたら湯飲みの中にあるお茶を零しちゃっておぬしの運命が消えちゃった訳だよ。一応、神様だし、おぬしが『有り得たかも知れない運命』程度にしか波瀾万丈な人生に変えて無かったんだけど運命が消えちゃって面倒だし、人が一人消えた所で世界は廻りつづけるからおぬしの存在消しちゃった』

テへ、と語尾に付きそんな態度で告げる自称神様。

『まあ、おぬしも平凡に生きていくよりサービス付き転生の方がいいじゃろ？ 暇だからどんな設定の要望にも答えてやるぞ？ 転生する世界だっておぬしが決めてくれてよい。やはり需要と言う意味では魔法少女リリカルなのは、魔法先生ネギま！、ゼロの使い魔、その辺りが手堅いかの。ISや恋姫無双辺りも頭角を表してきてお

る。マイナーな作品を狙うのも良いが余りオススメはせん』

いったい何の話か俺には分からない。

『なに、メタ発言と言っやつじゃ。そう気にするな。さて、何を望むんじゃ？』

「じゃあ……」と言って気軽に頼むと思ったか。ここは慎重に選ばなければいけない選択だ。

まずは転生サービスではなく、産まれる世界の指定。

譲れないのはそれなりの文化水準で平和な世界。

ゼロ魔や恋姫？ 馬鹿を言え。あの世界の移動は馬や徒歩だぞ。現代のモヤシツ子である俺が堪えられるか。電気がない生活とか無理です。

次に必要なのは原作知識の有無。神様がオススメした内残るリリカルなのはとネギまは知っているがISはアニメの知識しかない。

そして最も重要であるキャラクター。せっかく転生するのだからハーレム作って女の子とキャッキャウフフな事をしたい。そうなると重要なのが主人公の有無。リリカルなのはなのはにネギまのネギ、ハーレムで女の子独占を目指すならリリカルなのはで決定なのだが少し待ってほしい。

俺に異性が好意を抱く程の魅力があるかと聞かれたらハーレムを作りたいと言っている時点でダメだろう。むしろ最低の部類だ。ぶっちゃけた話、俺の狙うハーレムは肉欲の発散を前提とする最低な

モノなのでキャラクターは二の次、アクセサリー感覚で女の子をハーレム入りさせる事もあるだろう。

それに同じ作品を扱うな、と電波を感じた様な気がするし。

それにネギまはネギ・スプリングフィールドという男の主人公が存在するが確実に数名のヒロインを籠絡する自信がある。

何故ならネギがヒロインを落とした行動をそっくりそのままトレースしていればヒロインを籠絡出来るのが道理である。

その場合は最低でも転生サービスでネギと同等のスペックにしてもらう必要があるが。

寝取り？ 何を言うか。ネギが行動を起こす前に俺が行動を起こすのだから何も問題はない。むしろ、原作を見るかぎりネギは父親に向けてまっしぐらなのでネギに好意を向けているヒロイン達も報われぬ恋をするより俺に可愛がられた方が良いに決まっている。

うん、自分で思っけど完全に最低系主人公の思考だわ。まあ、理不尽な死因なんだし、来世で最低な事をして神様が許してくれるさ。

『うむ、中々の外道っぷりじゃが全て許す。むしろ、もつと突っ走ってネギを女体化、不老不死設定を付けて前大戦でアリカ姫とテオドラ姫をハーレム入り、本編前にフェイトガールズを回収、ハーレム入り、世界観が繋がつとる事を利用してＡＩが止まらないやラブひなからヒロインハーレム入り、本編中に地球編、魔法世界編に出てくる女性全てをハーレム入りさせるぐらいの事をせんか！ それこそ本物の外道最低系主人公と言うやつじゃ！』

そんな事を自信満々に言い切る自称神様の方がよっぽど外道である。それに俺にだって守備範囲というモノがある。

まあ、それもいいかもしれないが。

とりあえず、転生する世界が決まったら望む転生サービス。

真っ先に望むのは主人公体質。なんたってあの世界はストレスフリー（笑）な世界だ。どんなセクハラもギャグへ変化し、どんな不幸も女の子を落とす為の過去へ変わる、どんな敵との戦いも修業で終わる、生活費に困るとかも無いだろう。

後、確実に欲しいのは不老不死と痛覚遮断、完全記憶能力は譲れない。

不老不死と痛覚遮断は死にたくないのと痛いのが嫌だから。不老に關してはなるべく自分の意志で外見年齢を変えた方が良い。それが不老と言っていていいのか分からないけど。

完全記憶能力はヒロイン達のあられない姿を脳に記憶しておく為。

ニコポとナデポも欲しいがニコポは止めておいた方がいいだろう。

ニコポの効果が絶大で自分の笑顔を見た異性全てがハーレム入りする事になったら笑い事じゃない。日常的に笑ってはいけないとか拷問でしかない。それに比べてナデポなら自分の意志で相手を選べるので安心だ。

日常系はこれくらいで後は戦闘系。

とりあえず、このかの十倍の魔力とラカンの十倍の気、カンカホウ

を出来る様になりたいし、神鳴流も使いこなせる様になりたい。魔法も西洋、東洋関係なく全て使える様になりたい。拳法とかも使える様になりたいけど人を手で殴るとか痛そうなのであんまり乗り気ではない。

外道最低系主人公を名乗るみたいな空気が流れているのでこれぐらのスペックは必須である。

まあ、こんなもんだろ。

『では、全ておぬしの望む通りにしよう。次の人生に幸あれじゃ』

そうして俺は暖かい光に包まれながら意識を手放した。

第2話『転生するうえで最も強大な敵は日常生活の中にある』の巻（前書き）

転生した人間は前世の家族と転生先の家族。その苦悩があってもいいと思うんだ。

第2話『転生するうえで最も強大な敵は日常生活の中にある』の巻

幼稚園に上がる頃からだろうか、俺はこの世界に違和感を感じていた。

図書館島と呼ばれる島一つをその名の通り図書館にした巨大施設。

自重で折れても可笑しくない筈なのに強くそびえ立つ学園のシンボルである世界樹。

毎年楽しみにしているけど明らかに異常な完成度を誇る学園文化祭。

どれもが普通の生活に組み込まれた普通の事だったけれど俺はその生活に違和感を感じながら生活していた。

そして致命的だったのが小学校を卒業して中学校に入るまでの春休み、この世界に違和感を抱きながら暮らしていた俺は前世の記憶を全て取り戻した。

違和感の正体はこの世界にとって俺が一番の異端児だったから。

ここは前世の俺が望んだ通り、『魔法先生ネギま！』の世界だった。

「ふあゝ」

……………なんだか当の昔に乗り越えた筈の事を思い出していた気が

する。

そんな事を思いながら目を覚ました俺は冬の寒い朝の空気と布団の暖かいまどろみとの戦いを心の中で行いながらトントンと軽快な音を立てている台所の方へ視線を向ける。

「あ、やっと起きた？ 早く布団から出なよ。そろそろ朝ご飯出来るから。今日も新聞配達の仕事があるんだろ」

エプロン姿でこちらに振り向いた男の名前は諸星司。同じ部屋に住む俺の親友にしてクラスメイトだ。

料理が好きな人間なので食事や食器の管理は司が部屋の掃除やそのほかの家事は俺が担当している。

「分かったよ……」

俺の胃袋を握っている人物で逆らえない人間の一人だ。

「アスナには手は出さないから安心しろ」

「な、な、なんの事を言ってるのさ！」

布団から出て着替えを済ませた俺はイスに座って、机に並んだ朝食を箸でつまみながらぼつりと呟く。

面白いぐらいに狼狽する司を見て溜め息一つ。今のやり取りで分かるところが司は神楽坂明日菜の事が好きである。

原作に諸星司なんて名前は一度も出てきていないから本来なら報わ

れる恋で終わると思うがこの原作は俺がぶっ壊す。^{セカイ}

少し勿体ない気もするがヒロインの一人くらいくれてやる。前世の俺は主人公のネギから寝取り上等と言っていたが目の前で純粹に好意を抱いている親友から寝取るとか俺のチキンハートでは無理だった。叶うなら上手くいつて欲しいと思えた。

「って、時間じゃねえか！」

朝食を済ませ、ホッと一息ついた俺は時計を見て慌てて立ち上がる。

「行ってきます！」

「ん、行つてらっしゃい……」

靴を履き、部屋を飛び出すと今だのんびりと味噌汁を啜っている司から返事が返ってくる。

「すいません！ 遅れましたか！」

「んや、まだ大丈夫だよ……」

まだ薄暗い道を全力で走り抜ける事数十分、飛び込んだ新聞屋さんには既に自分と同じ様にアルバイトの同僚が集まっていて、皆で温かい飲み物を飲んでいた。

「んじゃ、これが今日の分な。よろしく頼むぞ……」

自分も集まりに混ぜてもらう事数分、配達を始める時間となり、配る新聞を受け取ると同じ様に新聞を受け取っているアスナの方を見る。

「いつもと一緒に早く配り終えた方に飲み物一本な」

「いいわよ、今日も奢らせてあげるから」

ふふんと鼻を鳴らすアスナに肩を竦める。本来、ヒロインであるアスナを落とす為に持ち掛けた同い年での配達勝負、司に譲ると決めた時から無駄な習慣に成り果てているが今更止めるにやめれなかった。

「んじゃ」

「よーい、スタート！」

アスナの掛け声と共にお互い別の方向に向けて走り出す。

競争しているが間違えない様に一軒一軒丁寧に。

新聞配達のアルバイトをしているのはアスナに近付く為だけじゃない。自分で自由に使えるお金を稼ぐ為である。

何故なら自宅から十分麻帆良学園へ通えるのにわざわざ寮生活にして貰っているからだ。学費や寮のお金を出して貰う代わりに生活費は自分で稼ぐ。それが両親との寮生活をする上での約束だった。

アルバイトは少しだけ辛いと思う時がある。それでも自宅にだけは

居たくなかった。

信じられないくらい美人で優しくて料理も上手い母親にイケメンで何の仕事をしているか知らないけど高給取りな父親、お兄ちゃんお兄ちゃんとなつてくる美少女な二つ歳下の妹。恵まれた環境、理想的な家族。それがどうしようもなく―――気持ち悪かった。

俺にとっては家族だったけど前世の記憶を取り戻した俺にとってこの理想的な家族は赤の他人だった。

母親だけど母親じゃない、父親だけど父親じゃない、妹だけど妹じゃない人達が俺を家族として扱っている。それが堪らなく気持ち悪かった。

前世の両親はクレヨンしんちゃんに出てくるヒロシとミサエで、妹はドラエもんに出てくるジャイ子、そんな家族。

どうしようもない家族だったけどそれが俺の家族だった。

失ってから分かったけど俺が一番心安らぐ暖かい家族だった。

自称神様と会話をした時、泣いて喚いて土下座をしてでも頼むべきだったんだ。転生サービスなんていらぬ。だから、元の世界に戻して欲しいと。

家族の絆、自分の居場所。口にするのも恥ずかしいそんな言葉の数々。目先の欲にかまけて自分から捨てたモノ。

永遠に失ってから気付いた大切なモノ。

「あ……」

気が付くと頬に涙が流れていた。

もう止めよう。永遠に失ったのだから二度と手に入らないから。

過去を振り返らずに未来を見据えて。

主人公体質持ちなんだからそれぐらい簡単に出来ると言い聞かせて
そうしないと心が折れそうだったから。

そしていつものようにアスナに飲み物を奢る事になり、世間話をし
ていた時に聞いたのだ。

今日はこのかが頼まれている新人教師の迎えについていくと。

原作の————物語が動き出す音が聴こえた。
セカイ

第2話『転生するうえで最も強大な敵は日常生活の中にある』の巻（後書き）

ネギまなのに何故かFATE式ステータス表

筋力：E以下（一般人レベル）

耐久：E以下（一般人レベル）

俊敏：E以下（一般人レベル）

魔力：E以下（一般人レベル）

幸運：A

宝具：そんなもんねーよ

保有スキル

主人公体質：EX

ストレスフリーな世界観に対して絶大な力を発揮する。異性のおっぱいを揉んだり、おっぱいに顔を突っ込んだり、押し倒したり、裸を見たり、お尻を触ったりしても異性に嫌悪される事なく、ギャグで全てが済まされる。普通に生活していてもイベントに巻き込まれ、無意識の内に少年マンガの主人公みたいな行動をする。このランクになると加護ではなく既に呪いである。幸運のランクをAに固定する。

不老不死：EX

死なない、老いない。それだけ。

痛覚遮断：E X

どんな怪我をしても痛みを感じず、一定の実力を発揮する事が出来る。

完全記憶能力：E X

見たものの全てを記憶する能力。

気：E X

使用量によって筋力・耐久・俊敏のステータスランクを上げる。技や術を扱う事も可能。

魔力：E X

使用量によって魔力のステータスランクを上げる。対魔力のステータスを得る事が出来る。技や術を扱う事も可能。魔法によっては筋力・耐久・俊敏のステータスランクを上げる。

ナデボ：E X

異性に対して有効。頭を撫でたらポツとなる。加護ではなく完全に呪い。

無限の修練：E X

本人の『やる気』と『努力』さえあればどんな技術であろうと習得出来るスキル。『努力』をすれば確実に応えてくれるが逆を言えば本人が『努力』しないかぎりなにももたらさない。

うん、ずらりとならぶEXスキル。外道最低系主人公に相應しいステータスです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0619z/>

とある外道最低系主人公の話

2011年12月3日13時52分発行